森林レンジャーがゆく

「ハンゲショウ」

Vol.153

季節外れの話になりますが、市内でハンゲショウが見られました。半夏生、半化粧と読みは同じですが、このような漢字があてられている植物です。名前の由来は、旧暦の雑節の一つである半夏生の時期に花が咲くとされているからです。また、花があまり目立たないかわりに、頂部の葉の半分くらいが白くなる虫媒花としての特徴から「半化粧」と記されることもあります。古くから日本人の生活の近くにあった植物でした。

ハンゲショウは、ドクダミの仲間であり、同様に薬草としても利用されるほか、茶花（ちゃばな）として茶室内に生けられることもあります。緑の葉の中にある白い葉がアクセントになり、日本の夏の蒸し暑さの中でお茶室の涼を演出してきた植物です。緑の葉は開花期だけ白化が見られますが、花が終わると緑の葉に戻り、人目に付くことはなく、遠目に他の植物との区別が難しくなり忘れ去られてしまうところがあります。

湿潤な土壌環境を好む植物ですが、残念なことに近年の沼や湿地整備などの開発や土壌改良などにより全国的に生育環境が激減し、多くの都府県で絶滅危惧種に指定されています。あきる野ではまだ見ることができますが、もともと数が少ない希少種ではなく、かつては人の生活に密着していた植物が減少し、絶滅危惧種になってしまうことは悲しい話ですね。　（杉野）



ハンゲショウ